令和８年度　大正中央中学校のあゆみ
―結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について―

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

Ⅰ「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

１　全国学力・学習状況調査

※英語はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式 （CBT＝Computer Based Testing）で実施。

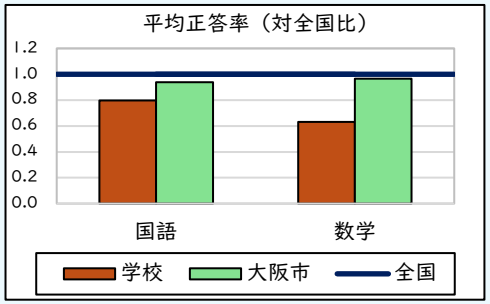
学年 実施月日		生徒数（人）	平均正答率（%）		平均無解答率（%）		平均IRTスコア 英語4技能 （）内は3技能（参考）
			国語	数学	国語	数学	
３　年	学校	68	51	36	7.4	18.8	399（408）
	大阪市	－	60	55	5.4	11.4	499（499）
4月23日	全国	－	63.9	57.0	4.9	10.4	499（499）

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。
　この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。
※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

令和８年度　全国学力・学習状況調査　教科に関する調査結果の概要（国語・数学）

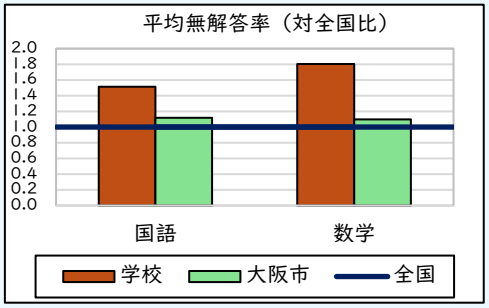
平均正答率（%）

	国語	数学
学校	51	36
大阪市	60	55
全国	63.9	57.0



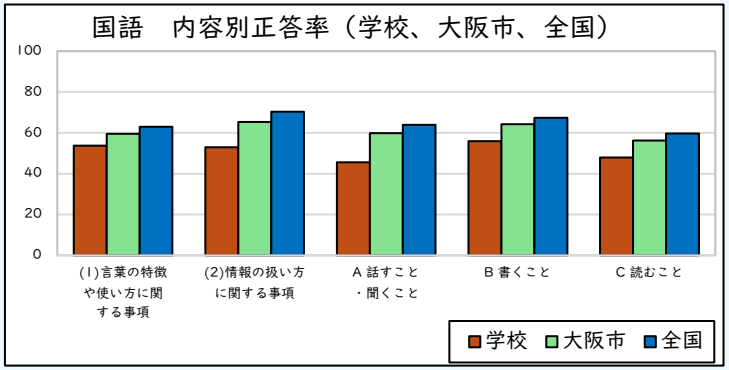
平均無解答率（%）

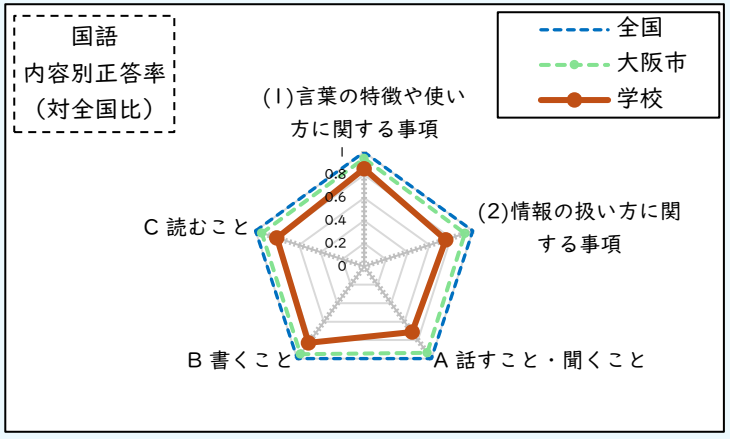
	国語	数学
学校	7.4	18.8
大阪市	5.4	11.4
全国	4.9	10.4



【国語】内容別正答率

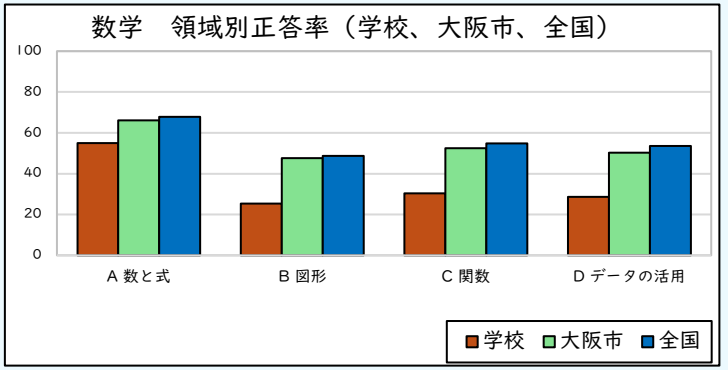
学習指導要領の内容	対象問題数（問）	平均正答率（%） 学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	5	53.8	59.5	63.0
(2)情報の扱い方に関する事項	1	52.9	65.3	70.4
(3)我が国の言語文化に関する事項	0	－	－	－
A 話すこと・聞くこと	3	45.6	59.9	63.9
B 書くこと	3	55.9	64.2	67.4
C 読むこと	3	48.0	56.3	59.7

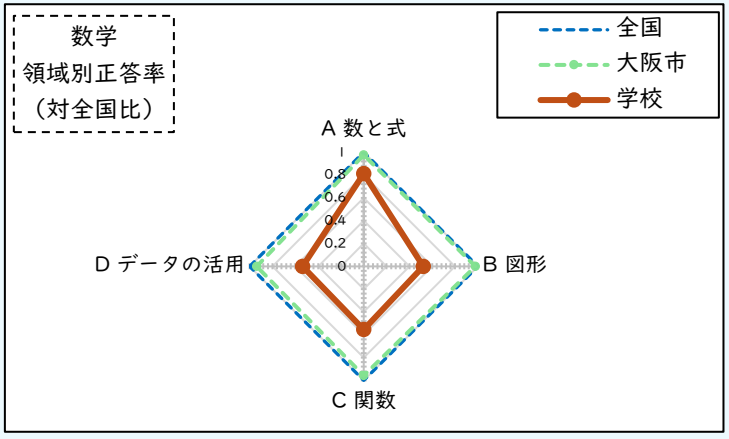




【数学】領域別正答率

学習指導要領の領域	対象問題数（問）	平均正答率（%） 学校	大阪市	全国
A 数と式	5	55.0	66.1	67.8
B 図形	4	25.4	47.6	48.7
C 関数	3	30.4	52.5	54.8
D データの活用	4	28.7	50.2	53.5

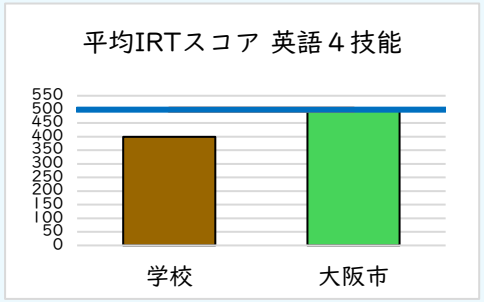




令和８年度　全国学力・学習状況調査　教科に関する調査結果の概要（英語）

英語　平均IRTスコア

学校	399（408）
大阪市	499（499）
全国	499（499）



※４技能の平均IRTスコアです

※（　）内は３技能の平均IRTスコアです

【IRT(Item Response Theory：項目反応理論）とは】

児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力に よるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

【IRTスコアとは】

IRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

導入する年（中学校英語は令和８年度）の全国平均を基準値とし、経年比較が可能な形で算出します。

【IRTバンドとは】

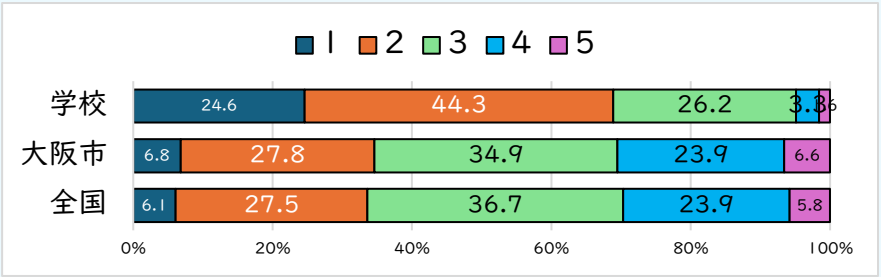
IRTスコアを１～５の５段階に区切ったものです。３を基準のバンドとし、５が最も高いバンドとなります。

※IRTスコア・IRTバンドは、難易度の高い問題にしていると高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに算出されます。

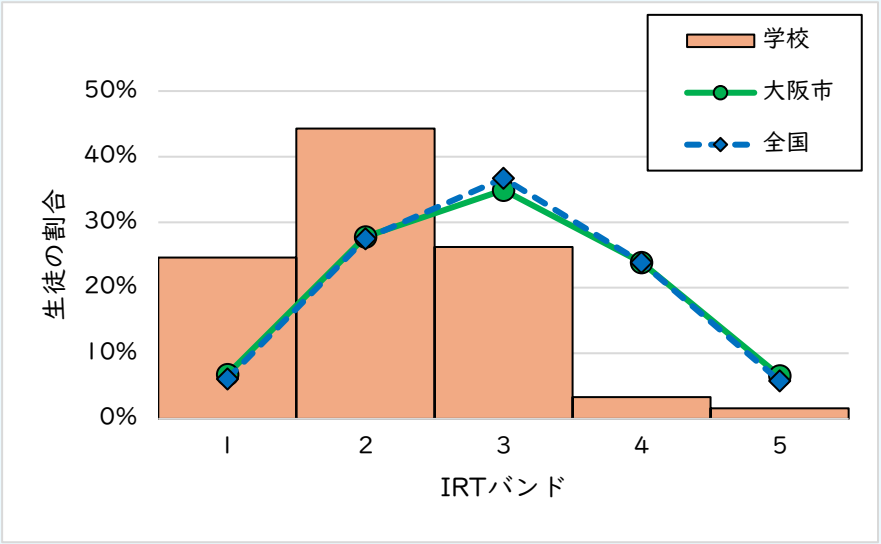
	IRTバンド分布比較（４技能）				
	１	２	３	４	５
学校	24.6	44.3	26.2	3.3	1.6
大阪市	6.8	27.8	34.9	23.9	6.6
全国	6.1	27.5	36.7	23.9	5.8

※４技能のIRTバンド分布です

IRTバンド分布比較（４技能）



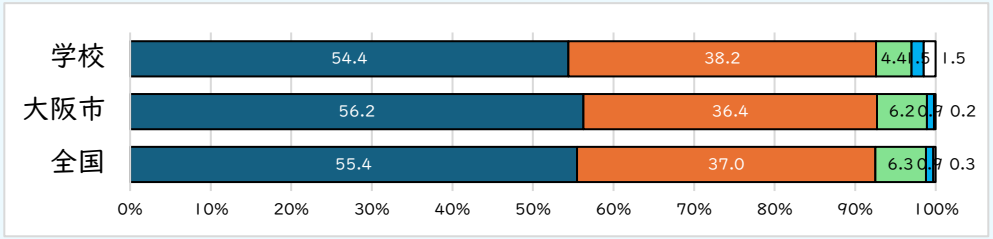
IRTバンド分布グラフ（４技能）



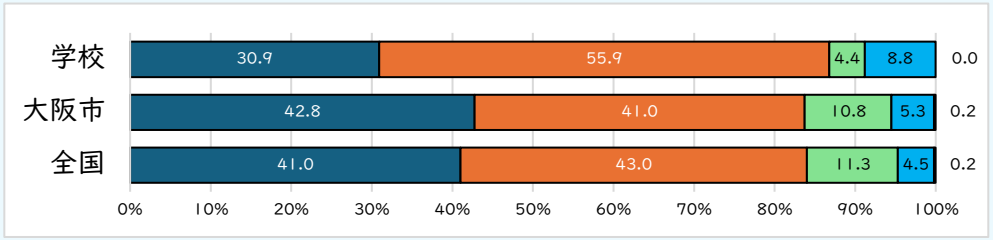
生徒質問調査より（１）

※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

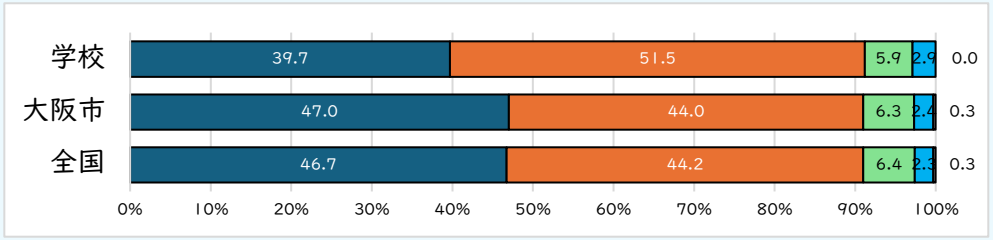
質問番号	質問事項
（３）	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか
（８）	自分には、よいところがあると思いますか
（９）	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか
（１１）	人が困っているときは、進んで助けていますか
（１４）	人の役に立つ人間になりたいと思いますか



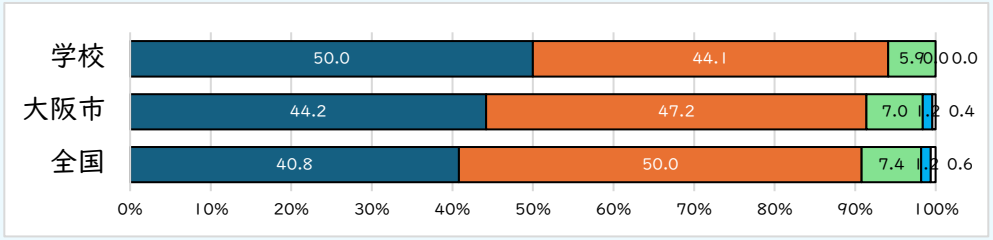
1 している
2 どちらかといえば、している
3 あまりしていない
4 全くしていない



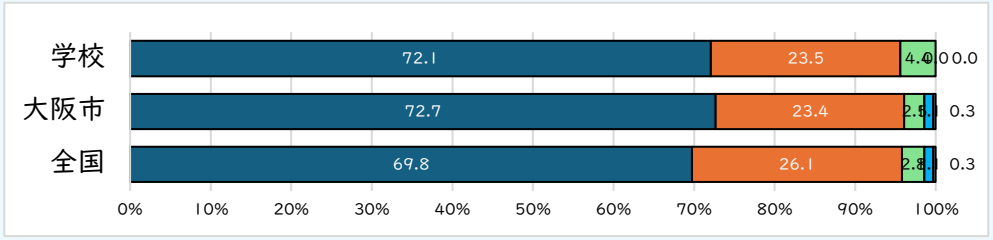
1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない



1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない



1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない



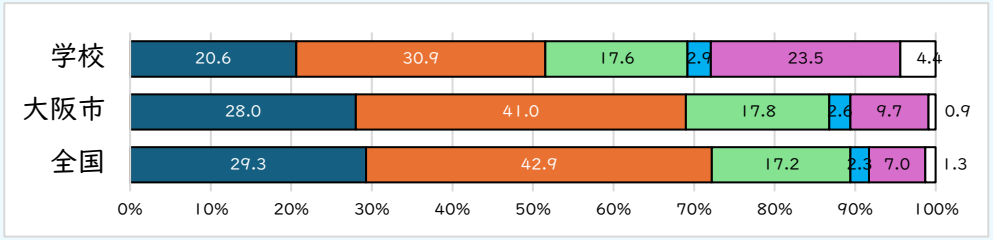
1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない

生徒質問調査より（２）

※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

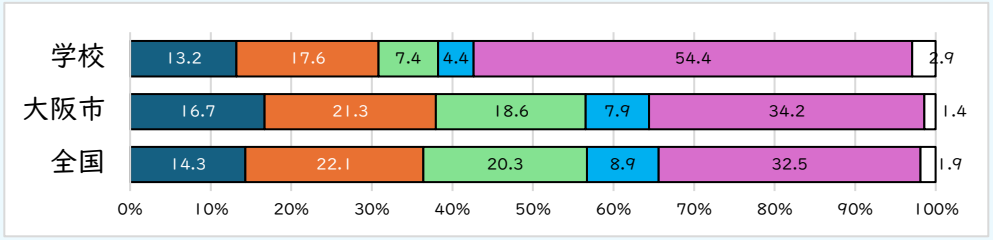
質問番号　　質問事項

（６）学校の勉強のことについて、あなたの親や家族は、どれくらいあなたと話しますか



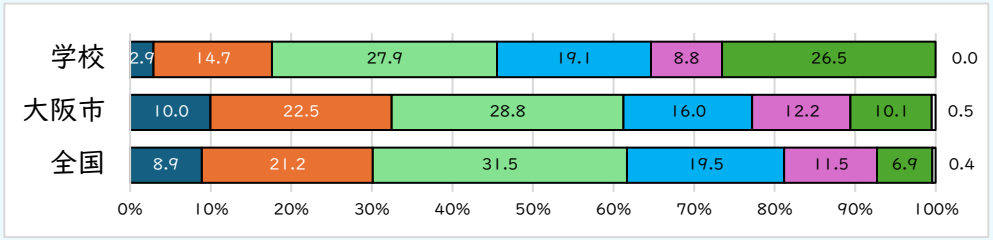
1 ほぼ毎日
2 週に１～２回
3 月に１～２回
4 年に１～２回
5 ほとんど、または、全くない

（７）学校での悩みについて、あなたの親や家族は、どれくらいあなたと話しますか



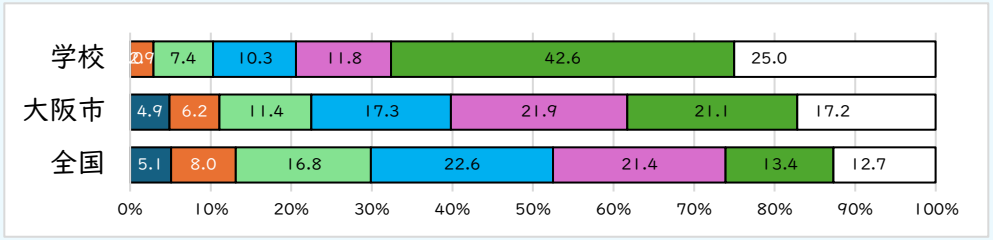
1 ほぼ毎日
2 週に１～２回
3 月に１～２回
4 年に１～２回
5 ほとんど、または、全くない

（２３）学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



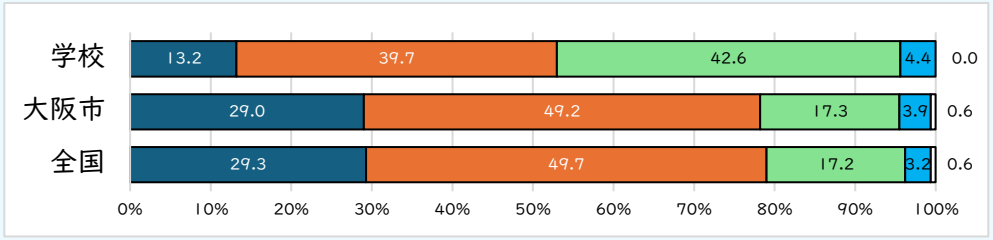
1 ３時間以上
2 ２時間以上、３時間より少ない
3 １時間以上、２時間より少ない
4 ３０分以上、１時間より少ない
5 ３０分より少ない
6 全くしない

（２５）土曜日や日曜日など学校が休みの日に、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



1 ４時間以上
2 ３時間以上、４時間より少ない
3 ２時間以上、３時間より少ない
4 １時間以上、２時間より少ない
5 １時間より少ない
6 全くしない

（４３）学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか



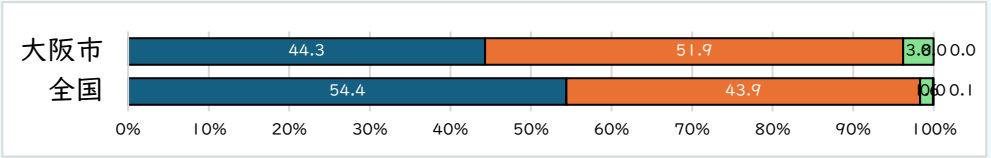
1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない

学校質問調査より

※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

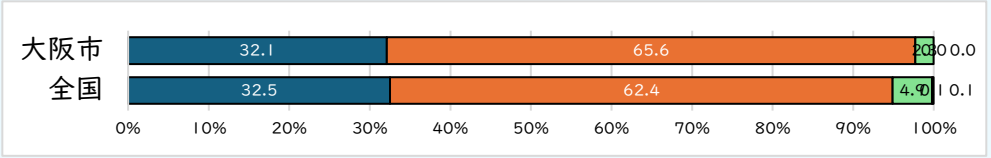
質問番号	質問事項
（11）	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組を行いましたか
（29）	調査対象学年の生徒は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組めていると思いますか
（39）	調査対象学年の生徒に対して、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか
（68）	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか
（75）	生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか

【学校の回答】　2　どちらかといえば、行った



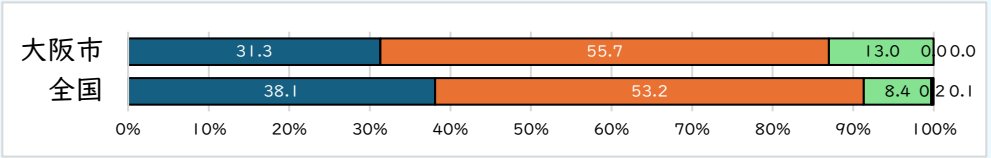
1 よく行った
2 どちらかといえば、行った
3 あまり行わなかった
4 全く行わなかった

【学校の回答】　2　どちらかといえば、そう思う



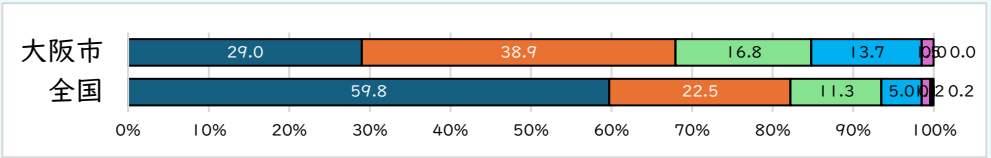
1 そう思う
2 どちらかといえば、そう思う
3 どちらかといえば、そう思わない
4 そう思わない

【学校の回答】　1　よくしている



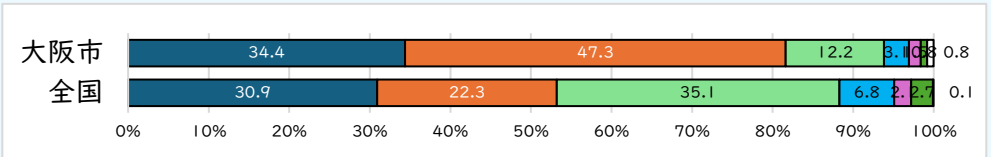
1 よくしている
2 どちらかといえば、している
3 あまりしていない
4 全くしていない

【学校の回答】　1　ほぼ毎日（1日に複数の授業で活用）



1 ほぼ毎日（1日に複数の授業で活用）
2 ほぼ毎日（1日に1回くらいの授業で活用）
3 週3回以上
4 週1回以上
5 月1回以上
6 月1回未満

【学校の回答】　1　毎日持ち帰って、毎日利用させている



1 毎日持ち帰って、毎日利用させている
2 毎日持ち帰って、時々利用させている
3 時々持ち帰って、時々利用させている
4 持ち帰らせていない
5 持ち帰ってはいけないこととしている
6 臨時休業等の非常時のみ、持ち帰ることとしている

調査結果とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について

成果と課題

【成果と課題】
◎全国学力・学習状況調査結果
＜国語＞「言葉の使い方に関する事項」では正答率が全国を超えるものがあったが、多くの領域で下回った。
＜数学＞「数と式」の領域では正答率が全国に近いものがあったが、多くの領域で下回った。
＜英語＞「聞くこと」の領域では正答率が全国を超えるものもあったが、多くの領域で下回った。
＜生徒質問紙より＞
○「毎日同じくらいの時刻に起きている」生徒の割合は全国並みである（本校、全国とも92.6%）。
○「自分にはよいところがある」生徒の割合は86.8%と全国（84.0%）より高い。
○「先生は自分のよいところを認めてくれていると思う」生徒の割合は91.2%と全国（90.9%）より高い。
○「人が困っているときは、進んで助けている」生徒の割合は94.1%と全国（90.8%）より高い。
●「学校の勉強のことについて親や家族とまったく話さない」生徒の割合は23.5%と全国（7.0%）より16.5pも高い。
●「学校での悩みについて親や家族とまったく話さない」生徒の割合は54.4%と全国（32.5%）より21.9pも高い。
●「家庭で全く学習しない」生徒の割合は全国よりかなり多い。
月曜日から金曜日・・・本校26.5%　全国6.9%（+19.6ｐ）／土曜日・日曜日・・・本校42.6%　全国13.4%（+29.2ｐ）
●「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげている」生徒の割合は52.9%と全国（79.0%）より26.1pも低い。
＜学校質問紙より＞
○学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見付け褒めるようにしている。
○授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組めている。
○総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をよく行っている。
○ICTについては、学校でも家庭でもほぼ毎日活用できるようにしている。

今後に向けて

・引き続き生徒の良さを見つけて褒めることや、協働して課題解決する探究的な学習を進めることで、非認知能力を向上させる。
・授業や家庭学習においてより効果的にICTを活用することで、学力の向上につなげる。
・一人ひとりにあった学習方法を指導するとともに、学習動画等の活用を推進することで、自主的・自律的な学習習慣を確立させる。
・保護者と連携して規則正しい生活習慣の定着を図るとともに、さまざまな情報を発信して家庭での会話を促していく。